

ホームページのご紹介

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞
株主名簿管理人 〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行事務センター
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

 日本空港ビルディング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 (東京国際空港内)
TEL: 03-5757-8000 <http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>

証券コード: 9706



第62期 事業報告書

平成17年4月1日 >>> 平成18年3月31日



日本空港ビルディング株式会社

昭和28(1953)年、当社は東京国際空港(羽田空港)の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。

現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念:「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」の下、
すべてのお客様にご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

基本理念

公共性と企業性の調和

経営方針

旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
お客様本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営
安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
企業体質の強化及びグループ企業の総合力向上

日本空港ビルデング(株)

グループ会社

施設管理運営業	物品販売業	飲食業
【保守管理】 ▶(株)エアポートマックス <small>清掃、警備等ビル管理業務、園芸管理業務</small> ▶日本空港テクノ(株) <small>空港ターミナル施設等の設備保守管理</small> ▶(株)櫻商会 <small>エアポートクリーンセンター、廃棄物処理</small> 【サービス】 ▶(株)ビッグウイング <small>旅客案内業、広告・イベントの企画運営</small> ▶(株)ヒロインターナショナル <small>羽田空港内における有料待合室・会議場の運営</small>	▶国際協商(株) <small>全国各空港売店等への一般品・免税品の卸売業及び物品販売</small> ▶(株)日本空港ロジテム <small>ロジスティクス(商品の運送・検品等)</small> ▶(株)羽田エアポートエンタープライズ <small>羽田空港における店舗運営業務</small> ▶(株)成田エアポートエンタープライズ <small>成田空港における店舗運営業務</small> ▶(株)浜真 <small>海産物等の卸売業及び小売業</small> ▶(株)アイティエス <small>ゲーム機・遊戯機等の娯楽機械の設置営業</small>	▶東京エアポートレストラン(株) <small>羽田空港及び成田空港における飲食店業及び軽食の製造販売</small> ▶コスモ企業(株) <small>成田国際空港内におけるアメリカン航空、プリティッシュ・エアウェイズ、シンガポール航空、キャセイ航空、チャイナエアライン、ヴァージンアトランティック航空等の外国航空会社への機内食ケータリング、冷凍食品の製造</small> ▶(株)アートフーズセンター <small>サンドイッチ、シューマイ、菓子、弁当の製造及び販売</small> ▶(株)シー・ティ・ティ <small>航空機内用品及び食器類の洗浄</small> ▶会館開発(株) <small>飲食施設の運営、宿泊・ホール・会議室の管理運営</small>

contents



株主の皆さまへ.....01	お知らせ.....08	単体財務諸表.....15
社長インタビュー.....02	事業別概況.....10	株主情報.....16
特集.....04	連結財務諸表.....12	会社情報.....17

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社第62期の決算(平成17年4月1日から平成18年3月31日)のご報告にあたり、ごあいさつ申し上げます。

当社が事業を展開しております航空業界は、国内線及び国際線旅客数は堅調に推移したものの、燃油価格高騰、不安定な国際情勢等の影響を受け、総じて厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループは、旅客ターミナルビルにおける安全対策強化に全力を傾注するとともに、顧客第一主義の徹底を図り、全社を挙げて一層のサービス向上に努めてまいりました。また、旅客ターミナルビル運営の効率化に取り組み、業務の活性化と経営の合理化・効率化を図り、社業の発展と経営基盤の強化に努めてまいりました。

特に、羽田空港における将来の航空旅客需要の増加に対応するため、さらなる利便性、快適性及び機能性の向上を目指し、第1旅客ターミナルビルにおきましてはエスカレーターの増設などの便利施設増改修工事、飲食店舗の全面改装工事等を鋭意推進するとともに、第2旅客ターミナルビルにおきましては増築工事に昨年9月着手いたしました。



今後とも、公共性の高い羽田空港旅客ターミナルビルの管理運営を担う純民間企業としての社会的役割を深く認識し、全社を挙げて厳しい経営環境に耐え得る企業体力の形成と経営基盤の強化を図るとともに、調和のとれた経営を目指すことにより、一層の社業の充実発展に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

代表取締役社長

鷹城 勲



代表取締役社長 鷹城 勲

Q 当期の連結業績について聞かせてください。

A 当期の連結業績につきましては、営業収益は1,232億3千5百万円(前期比10.6%増)、営業利益は、50億2千9百万円(前期比24.4%減)、経常利益は、45億7千2百万円(前期比31.9%減)、当期純利益は25億1千5百万円(前期比35.4%減)となりました。

羽田空港第2旅客ターミナルビルの通年稼働により増収となったものの、同ターミナルビルの通年稼働に伴う減価償却費等の増加、将来の航空旅客需要の増加などに対応するための第1旅客ターミナルビル改修工事に伴う減価償却費及び修繕費の増加等により減益となりました。

このように増収減益と厳しい結果となりましたが、経営基盤拡充のための先行投資に伴う費用増による減益でありますので、株主の皆さまにはご理解いただきたいと思います。

Q 社長就任後1年が経ちましたが、振り返っていかがでしたか。

A 当社は公共性の高い旅客ターミナルビルを建設・管理運営する企業ですので、社会的責任を十分に踏まえて、経営にあたっています。私は昨年4月の就任以来、「顧客第一主義」の徹底を図るとともに、CS理念「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」の下、CS推進活動を進めてまいりました。社長就任後も毎日旅客ターミナルビル内を歩いておりますが、この一年で当社グループ全体に着実に浸透し、各自の意識に根づいてきたと思います。

また、人材育成も経営者の重要な責務であると伝え続けました。昨年4月には人材育成の専任部署「日本空港ビルグループ研修・人材センター」を新設し、財界トップ等の日本を代表する方々を講師とする新たな研修「日本空港ビルグループ人間塾」を開設し、3回開催いたしました。また、国内外企業への研修派遣制度を新設するなど教育研修制度の見直し・充実を図りました。

最後になりますが、国によりPFI事業として進められている「東京国際空港国際線地区旅客ターミナルビル等整備・運営事業」への参画を目指し、担当部署を設置するなど全社を挙げて取り組んでまいりました結果、本年4月当社が代表企業を務める「HKTグループ」が選定事業候補者に選ばれました。

本年6月には、当社及び航空会社をはじめとする構成企業の共同出資により、特別目的会社「東京国際空港ターミナル株式会社」を設立しました。今後は、国際線旅客ターミナルビル供用開始に向けて、適切かつ着実に取り組んでまいりたいと考えております。

Q 今後の経営課題は何ですか。

A この数年間は、当社における将来の事業発展の基盤となる重要な時期であると認識しており、次のような考え方で経営上の重要課題に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

「東京国際空港国際線地区旅客ターミナルビル等整備・運営事業」につきましては、特別目的会社「東京国際空港ターミナル株式会社」の中核企業として参画ができることとなりましたので、当該事業が適切・着実に推進されるよう全社を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。また、さらなる販売・サービス力の向上などを図るため、引き続き積極的な人材育成に取り組んでまいります。

2009(平成21)年の羽田空港再拡張後を見据え、羽田空港第2旅客ターミナルビルの増築工事の推進及び供用、第1旅客ターミナルビル直営物販店舗改装工事の実施など積極的な先行投資を行うとともに、飲食店舗の運営コスト構造改革推進などの経営の効率化に努めてまいります。

また、成田国際空港におきましては、本年6月の同空港第1旅客ターミナルビル南ウイング供用開始に伴う航空会社再配置による旅客分散及び同業他社の参入による競争激化に加え、2007(平成19)年度に同空港第2旅客ターミナルビル本館増築・新規商業施設展開が予定されるなど厳しい経営環境が見込まれるため、営業基盤の拡充を図るとともに、訪日外国人旅客への積極的な販売促進活動の推進などによる収益向上を図ってまいりたいと考えております。

Q 株主還元についての考えは。

A 当社は公共性の高い事業を展開しておりますが、民間企業として株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、全社一丸となって業績の向上に努め、安定的な配当を実施して株主の皆さまへのご期待に応えてまいりたいと考えております。その一方で、第2旅客ターミナルビル増築工事等に伴う大規模投資のための内部留保の充実を図りたいと考えております。

なお、当期の期末配当金につきましては、このような配当方針に基づき、1株につき5円(既に実施済みの中間配当5円を加え、年間10円)といたしました。



進化する羽田空港 第1旅客ターミナルビル

第2旅客ターミナルビルオープン後、
第1旅客ターミナルビルの
改修工事を推進

第2旅客ターミナルビルとの
サービスレベルの均質化を図るとともに
2009(平成21)年の羽田空港再拡張後に見込まれる
航空旅客需要の増加に対応するため
出発ロビーから商業エリアへ
直接アクセスできるエスカレーターの新設、
エレベーターの改修など
第1旅客ターミナルビルの改修工事を推進しております。

第1旅客ターミナルビル改修工事

利便性、快適性、機能性の向上のため積極的な投資を推進



2004(平成16)年12月の第2旅客ターミナルビルオープン後、第1・第2旅客ターミナルビルのサービスレベルの均質化を図るとともに、2009(平成21)年羽田空港再拡張後の航空旅客需要の増加に対応するため、利便性、快適性、機能性の向上のため積極的な設備投資を推進しております。

商業エリアを活性化するため、飲食店舗の全面改装を行うほか、エスカレーターを増設するなど出発ロビーから商業エリアや上層階へのアクセス向上を図りました。また、旅客ターミナルビル内の案内表示やフライト案内ボードも視認性の高いものに変更いたしました。

- 1 2階出発ロビーからマーケットプレイス3階へ直接アクセスできるエスカレーター
- 2 キハチ初のプロデュース店「AIR TERMINAL GRILL KIHACHI」
- 3 空港初出店となるブランドや話題の空スイーツなどを扱う「特選洋菓子館」

- 4 中国より招いた一流点心料理長がオープンキッチンで本場の技を披露する「赤坂璃宮」
- 5 旅行の高揚感をアップさせる上質な時間を楽しめる買物空間「シャルム・アネックス」



第1旅客ターミナルビル中央商業エリア「ガレリア」から「マーケットプレイス」へ



第1旅客ターミナルビルの改修工事に伴い、第1旅客ターミナルビル中央の商業エリア「ガレリア」の名称を「マーケットプレイス」に変更するとともに、当社直営物販店舗の出店及び改装、当社グループ直営飲食店舗の全面改装などを実施したほか、物販・飲食テナントを誘致いたしました。

直営物販店舗

シャルム・アネックス(時計・筆記具など)	2005(平成17)年10月開店
特選洋菓子館(洋菓子)	2006(平成18)年3月改装オープン
ソニープラザ(化粧品・雑貨など)	2006(平成18)年3月改装オープン

当社グループ直営飲食店舗

赤坂璃宮(中国料理)	2005(平成17)年4月開店
京ぜん(日本料理)	2005(平成17)年4月開店
羽田寿司幸(江戸前寿司)	2005(平成17)年4月開店
AIR TERMINAL GRILL KIHACHI(ブラッセリー)	2005(平成17)年7月開店
東京シェフスキッチン(フードコート)	2005(平成17)年12月開店
信州そば あずみ野(日本そば・うどん・てんぷら)	2006(平成18)年3月改装オープン

テナント物販・飲食店舗

ブルックス プラザーズ(服飾・雑貨)	2005(平成17)年7月開店
ディーン&デルーカ(カフェ)	2005(平成17)年12月開店

これからの第1旅客ターミナルビル



2006(平成18)年3月までに旅客利便施設及び「マーケットプレイス」活性化工事などを推進してまいりました。

また、直営物販店舗の改装工事を進めるとともに、旅客ターミナルビル内の環境整備工事を推進し、さらなる利便性、快適性、機能性の向上を図ってまいります。

進化する羽田空港第1旅客ターミナルビルをご期待ください。



2006(平成18)年4月 第1旅客ターミナルビル2階出発ロビー南ウイングのおみやげ店「ピア2」が人気のスイーツや素材にこだわった惣菜を充実させた『東京食貨館』としてリニューアルオープン。

**東京国際空港国際線地区
旅客ターミナルビル等整備・運営事業について**

国によりPFI事業として進められております「東京国際空港国際線地区旅客ターミナルビル等整備・運営事業」に参画すべく、航空会社をはじめとする航空関連及び鉄道アクセス、エネルギー、IT、警備等の各企業とともに「HKTグループ」を組成し、当社がその代表企業を務め、全社を挙げて取り組んでまいりました。

第二次審査に参加した3グループの中から、本年4月、選定事業候補者に「HKTグループ」が選定されたことを受け、本年6月、当社及び航空会社をはじめとする構成企業の共同出資により、特別目的会社(SPC)「東京国際空港ターミナル株式会社」を設立いたしました。

東京国際空港ターミナル株式会社の概要

- 商号：東京国際空港ターミナル株式会社
- 代表者：代表取締役社長 霜田 明彦
- 本店所在地：東京都千代田区
- 設立年月日：2006(平成18)年6月20日
- 事業の内容：東京国際空港国際線地区
旅客ターミナルビル等整備・運営事業
- 出資される財産の価額：90億円
(資本金45億円以上、残りは資本準備金)
- 株主：日本空港ビルデング株式会社
株式会社日本航空
全日本空輸株式会社
成田国際空港株式会社
東京電力株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
セコム株式会社
東京瓦斯株式会社
京浜急行電鉄株式会社
東京モノレール株式会社

第2旅客ターミナルビル増築工事

第2旅客ターミナルビルは、2004(平成16)年12月に供用いたしました。今後とも増大が見込まれる国内航空需要に的確に対応するとともに、国内線航空交通の中心としての機能を確保し、さらなる利便性の向上を図るため、昨年9月、第2旅客ターミナルビル増築工事に着手いたしました。

現在、2006(平成18)年度内完成・供用を目指して、鋭意工事を進めており、供用開始後には、第2旅客ターミナルビルから航空機へ直接搭乗できるスポット(ゲート)が15から20となり、航空機への乗降がよりスムーズになることで、お客様の利便性がさらに向上します。

増築工事が進む羽田空港第2旅客ターミナルビル



新店舗オープン情報

**羽田空港第1旅客ターミナルビルに
「焼肉トラジ 羽田店」がオープン**

羽田空港第1旅客ターミナルビル マーケットプレイス5階に「焼肉トラジ 羽田店」がオープン。

トラジは、都内を中心に30店舗展開しているコリアンダイニングです。

「焼肉トラジ羽田店」は、空港内の焼肉レストランとして、出発前のお急ぎのお食事から、到着後のくつろぎのお食事までさまざまなお客さまのニーズにお応えできる店舗です。店内の段差をなくすなど、バリアフリー対応はもちろんのこと、ファミリーでも気軽に食事ができるよう配慮しております。

恵比寿・路地裏発祥の焼肉の味を、羽田空港でぜひお楽しみください。



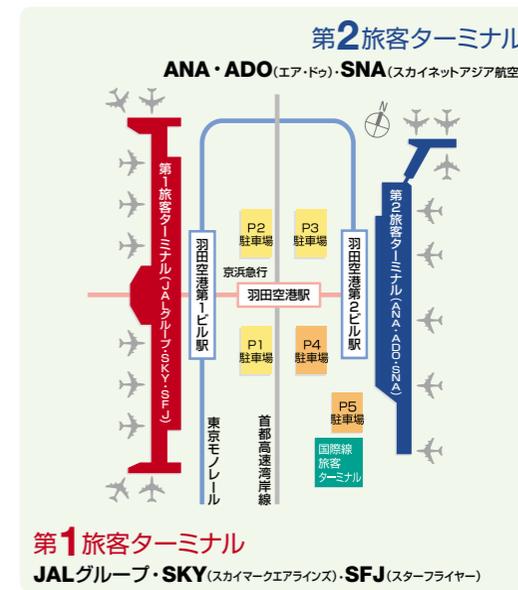
航空会社別 羽田空港ターミナルのご案内

ご利用の航空会社により
ターミナルビルが異なります

2006(平成18)年3月16日から 新規航空会社「スターフライヤー(SFJ)」が就航しました。羽田空港でのご搭乗は、**第1旅客ターミナルビル**となります。

また、スカイネットアジア航空(SNA)の羽田空港でのご搭乗は、4月1日より第1旅客ターミナルビルから**第2旅客ターミナルビル**へ移転となりました。

羽田空港をご利用の際は、お間違いのないよう十分ご注意ください。



施設管理運営業



航空会社統合や第2旅客ターミナルビルへの移転による航空会社事務室等に空室が一部発生しているものの、第2旅客ターミナルビルの通年稼働等により、家賃収入は概ね計画どおりに推移いたしました。

また、施設利用料収入は、第2旅客ターミナルビルの通年稼働に伴う国内線施設利用料の増加等により順調に推移いたしました。

その他の収入は、利用者増に伴う有料待合室「エアポートラウンジ」利用料収入及び第2旅客ターミナルビル通年稼働に伴う広告料収入の増加があったものの、前連結会計年度

に発生した第2旅客ターミナルビル供用開始に伴う請負工事収入が減少したこと及び駐車場利用台数の減少等に伴い、駐車料収入が減少したこと等により、前年を下回りましたが、概ね計画どおりに推移いたしました。

その結果、施設管理運営業の営業収益は371億8千3百万円(前期比14.7%増)となったものの、第2旅客ターミナルビルの通年稼働に伴う減価償却費等の増加、第1旅客ターミナルビル改修工事に伴う減価償却費や修繕費の増加等により、営業損失3千7百万円となりました。

物品販売業



国内線売店につきましては、国内線旅客数が堅調に推移する中、第2旅客ターミナルビルに出店した直営店舗の通年稼働に加え、新商品や季節感のある商品の積極的な催事販売等による販売促進を図るとともに、第1旅客ターミナルビルにおいては、2005(平成17)年10月に新たに直営店を1店舗出店し、さらに2006(平成18)年3月に既存2店舗を全面改装するなど営業基盤の拡充等に努めました。その結果、売上は前年を上回ることができました。

国際線売店につきましては、成田国際空港における国際線旅客数が伸び悩む中、台湾、中国、韓国の旅行代理店等とのさらなる提携の強化及び拡大による訪日外国人旅客への販売促進、インターネットを活用した免税品事前予約受付サービスの強化等積極的な営業展開を図りました。特に、羽田空港免税店

におきましては、平成17年8月からの羽田一金浦(韓国)間国際旅客チャーター便増便に伴う国際線旅客数の大幅な増加に加え、免税店改装・拡張及び新規ブランドの導入等品揃えの強化に努めたこと等が増収に寄与し、売上は前年を上回ることができました。

その他の売上につきましては、関西国際空港株式会社直営免税店への卸売上、2005(平成17)年2月から開始した中部国際空港株式会社直営免税店への卸売上等が増収に寄与いたしました。

その結果、物品販売業の営業収益は737億6千7百万円(前期比10.0%増)、営業利益は、第2旅客ターミナルビルへの直営店舗出店に伴う減価償却費及びその他運営コストの増加等により78億5千8百万円(前期比4.2%増)となりました。

飲食業



飲食店舗につきましては、羽田空港第2旅客ターミナルビルへ出店した店舗の通年稼働に加え、第1旅客ターミナルビルにおいて、既存店舗の全面改装を行い、フランチャイズ契約等による店舗を6店舗開店するなど営業基盤の拡充に努めたこと等により、売上は前年を上回ることができたものの、外食における低価格志向や、店舗改装工事に伴う一時閉店等の影響もあり、総じて厳しい状況のうちに推移いたしました。

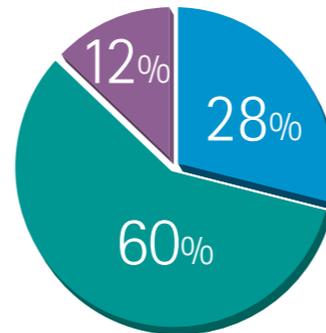
機内食につきましては、顧客航空会社のコスト削減等の影響を受けたものの、機内食提

供数の増加等により、売上は前年を上回ることができました。

その結果、飲食業の営業収益は160億6千2百万円(前期比2.7%増)となったものの、羽田空港飲食店舗運営コストの増加等により、営業利益は、2百万円(前期比98.3%減)となりました。

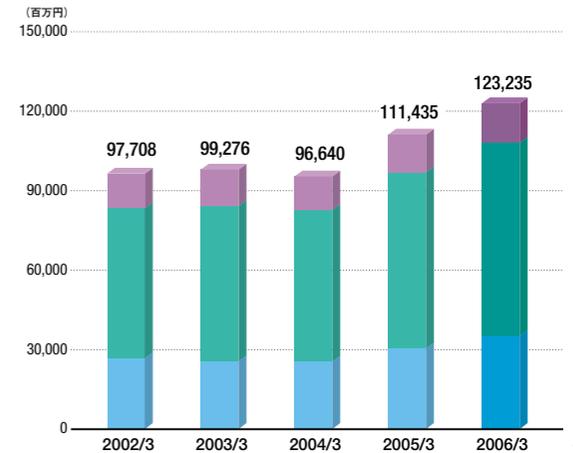
【営業収益比率】

■ 施設管理運営業 ■ 物品販売業 ■ 飲食業



【営業収益の推移】

■ 施設管理運営業 ■ 物品販売業 ■ 飲食業



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当期 (平成18年3月31日現在)	前期 (平成17年3月31日現在)	増減
[資産の部]			
流動資産	25,324	27,056	△ 1,731
現金及び預金	13,778	12,277	1,500
売掛金	5,648	5,640	8
有価証券	-	4	△ 4
たな卸資産	3,677	3,799	△ 122
繰延税金資産	906	921	△ 15
その他	1,320	4,419	△ 3,099
貸倒引当金	△ 6	△ 7	1
固定資産	162,852	166,787	△ 3,935
有形固定資産	142,538	147,799	△ 5,260
建物及び構築物	123,070	125,490	△ 2,420
機械装置及び運搬具	2,268	2,666	△ 398
土地	7,437	7,518	△ 81
建設仮勘定	3,121	5,201	△ 2,080
その他	6,641	6,921	△ 279
無形固定資産	684	811	△ 127
投資その他の資産	19,629	18,176	1,452
投資有価証券	11,039	9,706	1,333
繰延税金資産	5,783	5,864	△ 81
その他	2,823	2,606	217
貸倒引当金	△ 17	-	△ 17
資産合計	188,177	193,843	△ 5,666

有形固定資産

第1旅客ターミナルビル改修工事等により、建物及び構築物等が増加した一方、通年稼働した第2旅客ターミナルビルの減価償却費及び第1旅客ターミナルビル改修にかかる減価償却費が増加したこと等により、土地及び建設仮勘定を除く有形固定資産は前期比31億円減少いたしました。また、建設仮勘定については、第2旅客ターミナルビルの増築工事等による増加があったものの、第1旅客ターミナルビルの改修工事の完了により前期比20億円減少し、有形固定資産合計では、前期比**52億円の減少**となりました。

[負債の部]

	当期 (平成18年3月31日現在)	前期 (平成17年3月31日現在)	増減
流動負債	22,433	23,598	△ 1,164
買掛金	4,301	4,111	189
短期借入金	7,337	7,533	△ 195
未払法人税等	1,163	1,326	△ 163
その他	9,632	10,627	△ 995
固定負債	47,811	54,281	△ 6,470
長期借入金	32,337	37,653	△ 5,316
退職給付引当金	8,896	9,030	△ 133
その他	6,576	7,597	△ 1,020
負債合計	70,245	77,880	△ 7,634
[少数株主持分]			
少数株主持分	3,236	3,264	△ 27
[資本の部]			
資本金	17,489	17,489	-
資本剰余金	21,309	21,309	△ 0
利益剰余金	73,562	72,349	1,212
株式等評価差額金	2,409	1,632	776
自己株式	△ 75	△ 82	6
資本合計	114,695	112,699	1,996
負債・少数株主持分及び資本合計	188,177	193,843	△ 5,666

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

固定負債

第2旅客ターミナルビル増築資金として、新たに長期借入を実行しましたが、前期に実行した第2旅客ターミナルビル建設資金としての借入金の返済を開始したことなどにより、前期比**64億円**の減少となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 [自:平成17年4月1日 至:平成18年3月31日]	前期 [自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日]	増減
[経常損益の部]			
営業収益	123,235	111,435	11,800
営業費用	118,206	104,779	13,426
営業利益	5,029	6,655	△ 1,625
営業外収益	1,032	1,582	△ 549
営業外費用	1,489	1,527	△ 37
経常利益	4,572	6,710	△ 2,137
[特別損益の部]			
特別利益	37	131	△ 93
特別損失	235	113	121
税金等調整前当期純利益	4,375	6,729	△ 2,353
法人税、住民税及び事業税	2,301	2,889	△ 587
法人税等調整額	△ 441	△ 63	△ 378
少数株主利益	0	10	△ 10
当期純利益	2,515	3,892	△ 1,377

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 [自:平成17年4月1日 至:平成18年3月31日]	前期 [自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日]	増減
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	19,158	8,277	10,880
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,991	△ 28,136	17,145
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,697	11,657	△ 18,355
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0	0
V 現金及び現金同等物の増減額	1,470	△ 8,201	9,671
VI 現金及び現金同等物の期首残高	11,768	19,969	△ 8,201
VII 現金及び現金同等物の期末残高	13,238	11,768	1,470

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 [自:平成17年4月1日 至:平成18年3月31日]	前期 [自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日]	増減
[資本剰余金の部]			
資本剰余金期首残高	21,309	21,309	0
資本剰余金増加高	0	0	0
資本剰余金減少高	0	-	0
資本剰余金期末残高	21,309	21,309	△ 0
[利益剰余金の部]			
利益剰余金期首残高	72,349	69,572	2,777
利益剰余金増加高	2,515	3,892	△ 1,377
利益剰余金減少高	1,302	1,114	187
利益剰余金期末残高	73,562	72,349	1,212

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

営業収益

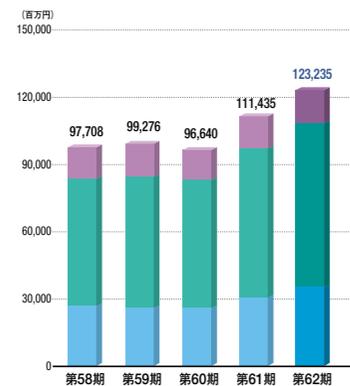
第2旅客ターミナルビルの通年稼働による家賃収入、施設利用料収入及び商品売上の増加に加え、羽田一金浦(韓国)間国際旅客チャーター便の増便に伴う国際線旅客数の増加による羽田空港免税店売上の増加などにより、前期比**10.6%増**となりました。

営業利益

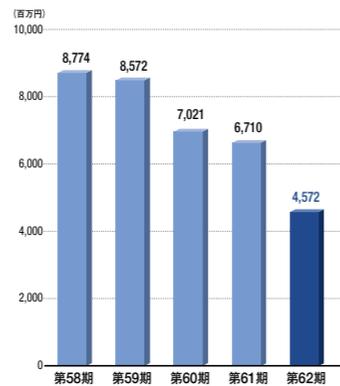
第2旅客ターミナルビルの通年稼働による減価償却費の増加及び第1旅客ターミナルビル改修工事に伴う減価償却費、修繕費の増加などにより、前期比**24.4%減**となりました。

営業収益

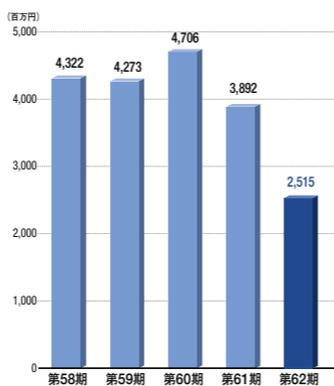
■ 施設管理運営業 ■ 物品販売業 ■ 飲食業



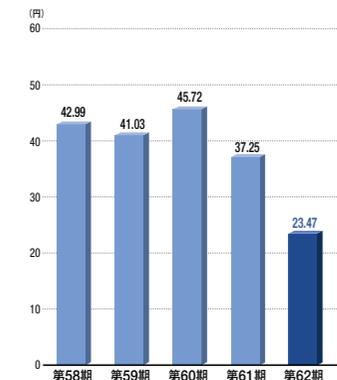
経常利益



当期純利益

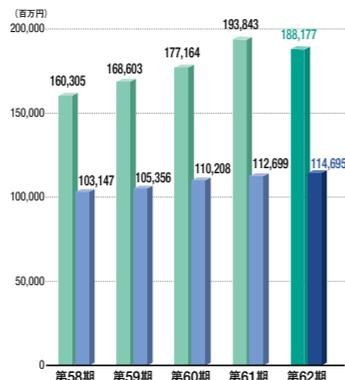


1株当たり当期純利益

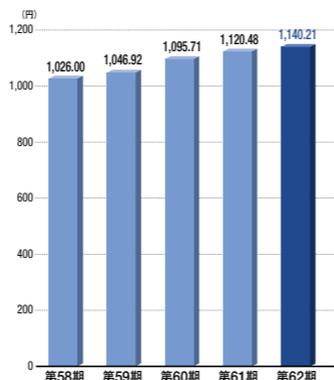


総資産/株主資本

■ 総資産 ■ 純資産



1株当たり株主資本



貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当期 (平成18年3月31日現在)	前期 (平成17年3月31日現在)	増減
【資産の部】			
流動資産	14,906	16,267	△ 1,360
固定資産	153,770	157,320	△ 3,549
有形固定資産	133,063	137,724	△ 4,660
無形固定資産	643	765	△ 121
投資その他の資産	20,063	18,830	1,232
資産合計	168,677	173,587	△ 4,910
【負債の部】			
流動負債	19,736	19,529	207
固定負債	45,849	52,242	△ 6,393
負債合計	65,586	71,772	△ 6,185
【資本の部】			
資本金	17,489	17,489	-
資本剰余金	21,309	21,309	0
利益剰余金	62,078	61,525	552
株式等評価差額金	2,289	1,565	723
自己株式	△ 75	△ 74	△ 0
資本合計	103,091	101,815	1,275
負債・資本合計	168,677	173,587	△ 4,910

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 [自:平成17年4月1日 至:平成18年3月31日]	前期 [自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日]	増減
【経常損益の部】			
営業収益	98,448	86,287	12,161
営業費用	94,853	81,103	13,750
営業利益	3,595	5,183	△ 1,588
営業外収益	1,124	1,559	△ 435
営業外費用	1,478	1,505	△ 27
経常利益	3,240	5,237	△ 1,997
【特別損益の部】			
特別利益	37	131	△ 93
特別損失	343	7	335
税引前当期純利益	2,935	5,361	△ 2,426
法人税、住民税及び事業税	1,480	2,020	△ 540
法人税等調整額	△ 300	112	△ 412
当期純利益	1,755	3,229	△ 1,474
前期繰越利益	848	670	177
中間配当額	502	351	150
当期末処分利益	2,101	3,548	△ 1,447

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位:百万円)

	当期	前期
当期末処分利益	2,101	3,548
任意積立金取崩額	-	20,000
羽田東側施設建設積立金取崩額	-	20,000
合計	2,101	23,548
利益処分額	549	22,700
利益配当金	502	652
取締役賞与金	47	47
羽田東側施設建設積立金	-	2,000
別途積立金	-	20,000
次期繰越利益	1,551	848

(注)1.平成16年12月7日に351百万円(1株につき3円50銭)の中間配当を実施いたしました。
2.平成17年12月7日に502百万円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。
3.前期の羽田東側施設建設積立金は、東京国際空港(羽田)第2旅客ターミナルビルへの拡張計画に備えて積み立てたものであります。

(平成18年3月31日現在)

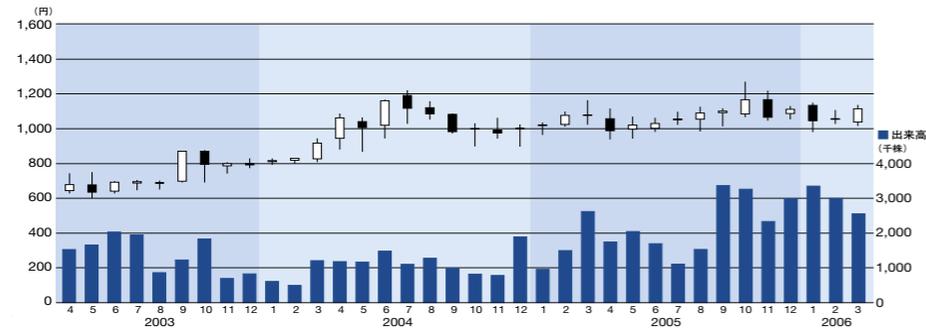
株式の状況

会社が発行する株式の総数 288,000,000株
 発行済株式の総数 100,540,000株
 株主数 4,383名

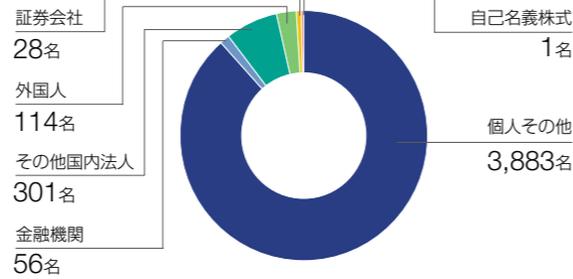
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社日本航空インターナショナル	5,426	5.39
全日本空輸株式会社	4,398	4.37
ザチースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	4,328	4.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(住友信託銀行再信託分・京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	3.46
株式会社みずほコーポレート銀行	3,415	3.39
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,408	3.38
三菱地所株式会社	3,111	3.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,850	2.83
大成建設株式会社	2,731	2.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,568	2.55

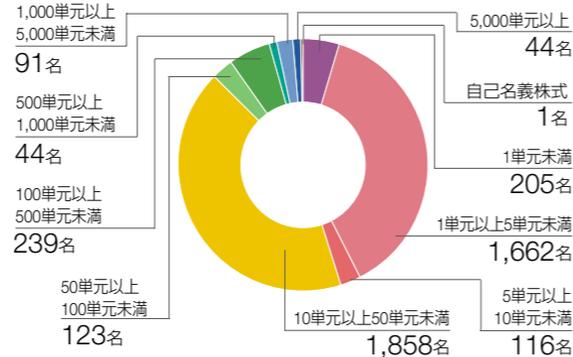
株価チャート



所有者別株主数分布



所有数別株主数分布 (1単元=100株)



(平成18年6月29日現在)

会社概要

商号 日本空港ビルデング株式会社
 Japan Airport Terminal Co., Ltd.
 設立 昭和28年(1953年)7月20日
 資本金 174億8,920万円(東証一部上場)
 事業内容 (1)東京国際空港(羽田)旅客ターミナルビルの建設、管理
 ①航空旅客ターミナル施設、見学送迎施設等の建設、管理
 ②航空運送事業者及び空港構内営業者に対する事務室、店舗、作業場等の賃貸
 (2)物品販売業務
 ①東京国際空港(羽田)旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
 ②成田国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
 ③関西国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
 (3)その他のサービス業務
 ①東京国際空港(羽田)利用者に対する案内業務、駐車場、旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供
 ②成田国際空港利用者に対する旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供

役員

代表取締役社長	鷹城 勲	取締役	高木丈太郎
代表取締役副社長	土井 勝二	取締役	根本 二郎
専務取締役	石黒 正吉	取締役	船曳 寛真
専務取締役	小林 久雄	取締役	小谷 昌
常務取締役	生貝 貢	取締役	戸矢 博道
常務取締役	櫻井 正志	取締役	西塚 英和
常務取締役	山本 兵一	取締役	霜田 明彦
常務取締役	鈴木 満	取締役	斎藤 光博
常務取締役	木村耕三郎	常勤監査役	真貝 和夫
取締役相談役	門脇 邦彦	常勤監査役	藤波 皖之
取締役	横田 信秋	監査役	赤井 文彌
取締役	宮永 千秋	監査役	樋口 公啓
取締役	小川 洋一	監査役	寺澤 則忠

本社及び営業所等

本社 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(東京国際空港内)
 東京事務所 東京都千代田区大手町二丁目6番2号 日本ビル10階
 羽田営業所 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(東京国際空港内)
 成田営業所 千葉県成田市古込字込前164番地(成田国際空港内)
 大阪営業所 大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地(関西国際空港内)
 中部営業所 愛知県常滑市栄町一丁目124番地

事業概要

羽田空港



第1旅客ターミナルビル

- ▶ 建物の所有・管理運営
- ▶ 物品販売
- ▶ 不動産賃貸
- ▶ 旅行サービス



第2旅客ターミナルビル

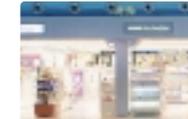
- ▶ 建物の所有・管理運営
- ▶ 物品販売
- ▶ 不動産賃貸
- ▶ 旅行サービス

成田国際空港



- ▶ 物品販売(免税店ほか)
- ▶ 卸売(免税品、一般品)
- ▶ 旅行サービス

関西国際空港



- ▶ 免税店運営業務受託
- ▶ 物品販売
- ▶ 卸売

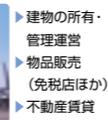
中部国際空港



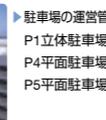
- ▶ 卸売



国際線旅客ターミナルビル



駐車場



- ▶ 駐車場の運営管理
- ▶ P1立体駐車場
- ▶ P4平面駐車場
- ▶ P5平面駐車場